



東京部会(第 24 回)

日 時: 2009 年 10 月 6 日(木)19:00~21:00

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、小巻(日大)、猪瀬(弘前大)、大倉(文科省国立教育政策研)、
新井(都立西高)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、鈴木(日本経済教育センター)、
中沖(清水書院)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 教科書の「市場」と「最適」の説明について

最初に宮尾より、配布資料「高校生に市場の効率性をどう分かりやすく教えるか(案)」をもとに、現在の「政治・経済」の教科書における「市場」の説明の箇所「最適性」や「効率性」が定義されていないことの問題点が指摘された。それではどうすべきかについて、参加者の間で様々な議論が出た結果、以下のような 2 段階の提案をまとめこととした。(1)現在の「政治・経済」の教科書における各章や各節の見出しや長さを変えることなく、市場機構の説明部分を改訂して(および欄外の図表などの部分を書き直して)、最適性の定義を分かりやすく書き加える。(2)教科書の市場機構の説明部分の長さを倍増させることができたとして、最適性の定義や市場の効率性の分析、またその政策論への応用などを分かりやすく説明する。以上の提案を次回の部会までに行うこととした。

2. 「囚人のジレンマ」のゲームの実験例

高橋先生より、配布資料「社会科(公民科)学習指導案」の説明があり、「公共財」としての灌漑の工事を例とした簡単な「囚人のジレンマ」のゲームを、実際の授業で何回か使ってみた結果が報告された。この段階で、この内容を多少の修正上、ホームページに載せて、さらに外部から意見を取り入れて充実を図ることが決められた。

3. 入試問題プロジェクトの中間報告

新井先生より、配布資料「入試問題プロジェクト・中間報告(東京部会)」と検討をお願いした諸先生方の評価やコメントをすべてリストした参考資料「入試問題検討プロジェクト」をもとに検討結果の中間報告があった。何といっても記憶中心の「知識問題」が大多数であるが、いくつかの大学では経済教育の観点からかなり意欲的で評価できる問題も出されていることが指摘された。これらの点について参加者の間で色々な議論が出たが、結論として単なる暗記によるのではなく、少しは考えさせるような問題を出すことが重要で、それを奨励するような内容を含む教科書の改訂が急務という意見も出された。今後については、10 月末までに検討結果の回収と点検を行い、11 月をメドにまとめたいとのこと。ある段階で東西の代表者が討論を行うことも提案された。

4. 福井でのワークショップについて

昨年 11 月の福井でのワークショップが好評で、第 2 弾を今年の 12 月 3 日(木)に高校を対象に行うこととなった。

5.

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 11 月 17 日(火)19:00~21:00、日大経済学部 3 号館 4 階会議室。

今回と同様に、教科書と入試問題の内容の検討を中心に議論することになった。

なお、その次は、暫定的に 12 月 15 日(火)18:00 からと決められた。